

放牧による耕作放棄地解消事例

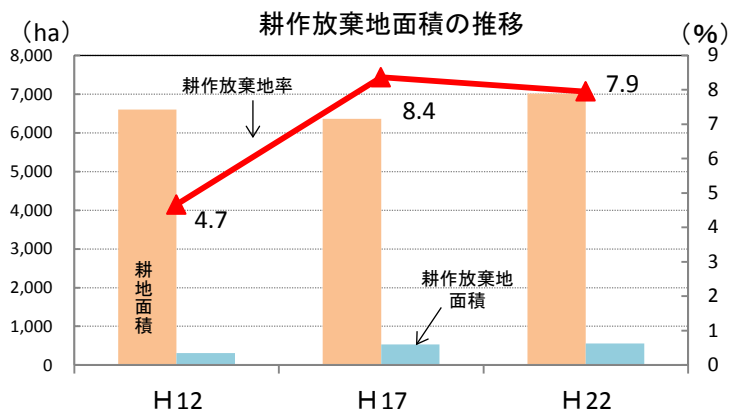
〔長崎県諫早市〕

いさはやし

1. 地域農業の状況

- 諫早市は、長崎県の中央部に位置し、市域北東部は北西部で大村湾・東側で有明海（諫早湾）・南側で橘湾の3つの海に囲まれている。
- 主要作物としては、平坦部においては水稻、山間部においてはみかん栽培が盛んである。
- 担い手不足等により、中山間地域を中心に耕作放棄地が増加しており、農地面積7,020ha(平成25年耕地及び面積統計)であり、耕作放棄地面積は558ha(平成22年農林業センサス)となっている。
- 本件の取組が行われた農地は、水田による稲作経営と酪農経営が中心であったが、鳥獣被害による収穫量の減少に加え、農業者の高齢化と後継者不足により、耕作放棄地が増加していた。

〈位置図〉



2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	畜産農家	地区名	小長井(こながい)地区
再生面積	1.2ha(放牧面積8.2ha)	取組年次	平成23年・24年
作付作物	飼料作物		

(1) 取組の経緯

- 繁殖牛の畜産農家が阿蘇などでの放牧風景を視察し、放牧の取組に興味を持っていたところ、県普及センター（現在は県振興局）が放牧の取組を推進していたため、平成12年に所有地の2.0haにおいて放牧を始めた。
- 県振興局が耕作放棄地の所在を地図に図示し、畜産農家の牛舎の近くにある耕作放棄地について、放牧による再生利用を斡旋。当該畜産農家においては、耕作放棄地を借りて年々放牧面積を拡大しており、現在8.2haにおいて実施。

(2) 再生・利用活動

- 耕作放棄地に繁殖雌牛等を放牧し、繁茂している雑草を食べさせて農地として再生。その後、牧草を播種し、放牧地として管理している。

(3) 効果

- 放牧することにより、①繁殖雌牛が強健になり毎年子牛を産むようになり繁殖成績が向上、②子牛の疾病が減少といった成果が見られる。
- 放牧地の牧草を飼料にすることにより、飼料代が削減された。また、水の補給以外は手間もかからず、省力化につながっている。



放牧地全景



放牧状況

活用した支援策

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業・土壌改良)